

ガラスの海を渡る舟

寺地はるな

大切な人が死んでしまったとき
その人たちの「骨」はどこに行くのでしょうか？
祖父が遺したガラス工房を大学生の孫2人
道と羽衣子で紡いでいく骨壺制作を共に行う
10年を描いた長編小説です。

